授業改善推進プラン＜学年別＞

04　練馬区立豊玉第二小学校

1年	課題分析	授業改善策
国語	・平仮名と片仮名の学習のなかで、マスの中で形をとり、正しく書くことができない児童がいる。 ・書くことの指導時間が不十分だった。 ・大きな声ではっきりと話すことができる児童が少ない。 ・自分の考えを発表することはできるが、伝え合いの力が十分でない。	・マスを大きく書いた用紙を用意したり、モールなどで形をとる学習を取り入れたりして、視覚だけでなく触覚も促す指導をしていく。 ・自分の気持ちなどを言葉にする書くことを指導する時間を計画的に増やしていく。 ・はっきりと話すことができるように、音読を宿題で補い、教科書の暗唱活動を取り入れた。 ・伝え合いの活動を多く入れるようにし、ペア、グループ、クラス全体と段階的に人数を増やすことで心理的な抵抗をなくし、技能を引き上げていく。
音楽	・器楽の鍵盤ハーモニカでは、正しい運指や息づかいで演奏することが難しい児童がいる。 ・歌唱では、正しい音程で歌ったり、周りの音をよく聴いて合わせて歌ったりすることに課題が見られる。	・実物投影機を用い、児童が正しく運指や鍵盤の位置を覚えられるようにする。必要に応じて個別指導を行う。児童同士での教え合いができるよう座席の工夫をする。 ・良い表情で歌っている児童や大きな口を開けて歌っている児童を前に出して歌わせ、その良さを他の児童が模倣できるようにする。 ・自分の声と教師の範唱を比較して歌う活動を取り入れることで、音程のずれを児童自身が認識できるようにする。
図画工作	・教師の指示・理解が難しい児童が少数いる。 ・基本的な道具や材料の扱い方について、経験の違いによる個人差が大きい。 ・発想や構想について、一つの表現にとどまり見方・感じ方を広げられない。	・活動前にICT機器を使用し教師が師範したり、掲示資料を図式化することで視覚的に理解させる。 ・道具や材料について、特徴や基本的な扱い方を自然な流れで学習できる題材を準備する。 ・造形遊びの題材を経験させることで、材料と向き合いながら試行錯誤し発想や構想を広げていけるようにする。
体育	・かけっこやマットを使った運動等において、ルールの確認と運動量の確保の兼ね合いが難しい。 ・体を動かす楽しさを味わうことや友達とかかわり合うこと、基本的な動きを身に付けることが意識できない児童がいる。	・ICTを活用し活動の順序や手本を見せることで、「説明は短く、運動量は多く」を意識する。 ・学習カードを工夫し、課題や成果を可視化し、児童が運動に主体的に取り組めるようにする。また、児童の運動経験を踏まえ、無理のない範囲でグループ分けや児童同士の教え合いなどを取り入れる。

授業改善推進プラン＜学年別＞

04　練馬区立豊玉第二小学校

2年	課題分析	授業改善策
国語	・自分の考えや意見に自信がもてず、人前で発表することに抵抗のある児童がいる。 ・漢字や言葉の使い方、文章の書き方の定着が不十分である。	・「話す・聞く」の単元で意図的に発言、発表する機会を多く設ける。ペアや班で思考したり、考えを共有したりする時間を意図的に多く設け、全体での発表への抵抗感を少なくする。 ・自分の考えや意見をノート等に書き表す機会を確保し、表現させる。 ・音読で教科書以外の様々な文章を読ませることで語彙力の向上に努める。「書き」については、漢字の小テストを繰り返し行い、直しまで行うようにする。 ・作文指導は、絵日記を中心に主述の関係やマスの使い方など、繰り返し練習させて定着を図る。
音楽	・歌唱では、範唱をよく聴いて正しい歌詞やリズムで歌うことができるようになってきているが、フレーズを意識したり、曲に合った発声で歌ったりすることにはまだ難しい。 ・器楽の鍵盤ハーモニカでは、技能の差が出始めている。運指も難しくなってくるため、混乱してしまう児童もいる。	・言葉のまとまりを生かして歌詞を音読する活動を取り入れたり、ブレスの位置を意識しフレーズのまとまりを感じ取らせる。また、音符についての学習の中で各音符の長さに注目させ、演奏に活かすようにしていく。 ・実物投影機を用い、運指の確認を丁寧に行う。個別学習の時間を取り、児童同士の教え合いも取り入れながら少しずつ定着させていく。
図画工作	・創造的な技能について、既習の用具の基礎基本が身に付いていない。 ・発想・構想の能力について、自分の生活経験の中の興味・関心を色や形で再現することに留まってしまう児童が少数いる。	・既習の用具の扱いについて、ICT機器を使用して視覚的に理解させながら基礎基本を身に付けさせる。 ・造形遊びの題材を取り入れることで、材料や用具と関わりながら、主体的に発想・構想を広げていけるようにする。
体育	・運動する機会が減っているせいか、体力の低下が見られる。 ・ソフトボール投げや、ボールなどを扱った用具操作の運動に個人差が見られる。 ・柔軟性の低い児童や関節の動きがスムーズでない児童が多くみられ、運動への支障や怪我のリスクが高まっている。	・体育授業での運動量を増やす。また、休み時間は天気の良い日は外で体を動かして遊ぶように声を掛け、体力の向上を図る。 ・領域ごとに特性に応じた感覚づくりの運動を一単位時間の中で取り入れ、主運動につなげていくようにする。 ・準備運動の際に、身体の部位のうちどこを伸ばしてほぐしているのか指導しながら、ストレッチ等を取り入れ、柔軟性を高めるようにする。

授業改善推進プラン＜学年別＞

04　練馬区立豊玉第二小学校

3年	課題分析	授業改善策
国語	・文章を書くときに習った漢字を活用することが苦手な児童がいる。 ・文章を書く力に関して、個人差が大きく、語彙が少ないため思考したり表現したりする際に難しそうにする児童が多い。 ・登場人物の気持ちの変化や性格、情景など場面の移り変わりや叙述と結び付けて想像したり考えたりすることが苦手な児童がいる。	・既習の漢字について、普段のノートや文章の中で使う習慣をつけ、国語の時間以外にも国語辞典を活用し、言葉の意味を深める。 ・場面の移り変わりに注意し、登場人物の心情の変化など、叙述に即して読むよう指導する。 ・友達と意見を交流させることで、質問したり感想を述べたりする力を付ける。 ・週1回の図書の時間、専門員による読み聞かせ、ブックトーク等を通して、本に親しむ機会を増やす。 ・行事や学習活動に合わせた作文指導を取り入れたり、短い文で自分の考えを書いたりするなどして継続的に書く活動を行う。
音楽	・器楽のリコーダーでは、運指はほぼ定着している。息の入れ方や穴の塞ぎ方に課題があるため、音が安定しない。 ・リズム譜は、ほどんどの児童が正しく読むことができるが、階名を正しく読むことにはまだ課題がある。 ・歌唱においては、低学年の元気いっぱいな声から、響きの統一された歌声に変えていきたい。 ・鑑賞においては、感性を働かせて自分なりに曲の背景を想像したり、感じ取ったことをワークシートに記入したりすることできる。しかし、曲の雰囲気・表情などと音楽の構造との関わり合いを捉えながら聴くことはまだ難しい。	・演奏する際の姿勢や息の入れ方、穴の塞ぎ方を確認しながら練習させる。継続した練習の大切さを説明しながら根気強く取り組ませる工夫をする。また、個別指導でそれぞれのつまずきに応じた支援を行っていく。長期休業中を利用し家庭でも継続して練習に取り組ませる。 ・階名読みを定着させるためにフラッシュカード等を用いて、クイズ形式で確認する時間を設けたり、時間を設定して階名読みに集中して取り組めるワークシートを用意する。 ・聴き合う時間を適宜とり確認させながら響きのある歌声にまとめていく。 ・児童から出た意見が、感じ取ったことなのか、聴き取ったことなのかを整理し板書するようにする。また2つがどのように関わり合っているかを理解させ結びつけていく。
図画工作	・創造的な技能について、用具や材料を扱う経験が少ないため、表現方法の幅が狭い。 ・発想・構想の能力について、自分の生活経験の中で興味をもっていることの再現に留まってしまう児童が少数いる。	・さまざまな用具・材料の扱いを経験しながら自分なりの表現を主体的に広げていける題材を実施する。 ・造形遊びの題材を取り入れることで、児童が自分の思い付いたことを自分なりの方法で試行錯誤しながら表現していけるようにする。
体育	・基礎的・基本的な技能の習得が身に付いていない児童が目立つ。 ・得意不得意がはっきりしている。不得意な運動に対するモチベーションが低い。	・基礎的・基本的な運動は、点ではなく線の指導で継続的に行う。 ・学習カードを作成し、課題や成果を可視化できるようにする。また、友達同士で支え合ったり教え合ったりする仕組みを作り、苦手な児童も楽しく活動できるようにする。

授業改善推進プラン＜学年別＞

04　練馬区立豊玉第二小学校

4年	課題分析	授業改善策
国語	・漢字が定着しない児童がおり、どの場面でも正しく使うことができるように漢字の習熟に関する指導をより一層充実させる必要がある。 ・物語文などの読み取りを広める際に、発言する児童が一部に偏ってしまいがちである。 ・自分の考えを文章に表せない児童がいる。 ・中心となる言葉や文を見つけ出し、的確に短くまとめる力が不足している。 ・相手の話を集中して聴き、意図や重要ポイントを正しく理解する力が不十分である。	・漢字の小テストを段階的に繰り返し行い、新出漢字を使った短文づくりや「似た意味・反対の意味の漢字探し」を繰り返し、文脈の中で漢字を使う機会（活用機会）を増やす。 ・読み取りを深められるような授業の展開(個人ーペアー全体)をし、学び合いの場面を取り入れていく。 ・「文章の型」を活用する。「結論→理由→具体的な根拠→まとめ」などの書き方の型を明示し、スモールステップで記述させる。 ・「キーワードの抽出」と「文字数制限」の学習ステップを入れる。 ・「話を聞いた後のアウトプット（リアクション）」をセットにし、聞く目的を持たせる指示（聞き取った内容を要約して返す練習など）を設ける。
音楽	・器楽ではリコーダーの技能面での個人差が大きく、運指や息づかいのコントロールが難しい児童がいる。 ・歌唱においては、正しい音程で歌うことが難しい場合もあるが、斉唱から部分二部合唱へと発展させた学習へと進めている。 ・鑑賞においては、ほとんどの児童が曲の特徴を捉えたり、感じ取ったことをワークシートに書いたりすることができる。しかし、感じ取ったことと、音楽の構造とを関わらせながら聴くことについては課題がある。	・個別指導でそれぞれのつまずきに応じた支援を行う。また、児童同士で教え合う時間を確保しながら進めていく。適宜、補充学習を行う。 ・自分の声をよく聴き、音程のずれを認識できるよう、教師と児童が交互に歌ったり、友達同士で聴き合ったりする活動を取り入れる。また発声などの基礎練習を計画的・継続的に行っていく。 ・児童の意見を板書する際に、曲想と音楽の構造に整理しながら書くようにする。また2つがどのように関わり合っているかを考える場面を設定し結びつけられるようにしていく。
図画工作	・創造的な技能について、用具や材料を扱う経験が少ないため、表現方法の幅が狭い。 ・発想・構想の能力について、自分の思い付いたことに合わせて表現を広げたり深めたりすることが難しい児童が少数いる。	・さまざまな用具・材料を経験しながら自分なりの表現を主体的に広げていける題材を実施する。 ・表現の途中などに鑑賞を取り入れることで、友達の作品のよさや面白さを自分の作品に取り入れられるようにする。また、造形遊びの題材を取り入れて、試行錯誤しながらさまざまな表現ができるようにしていく。
体育	・意欲的に活動できるが、みんなと協力して安全に行動しようとする意識が低い児童がいる。 ・積極的に取り組んでいるが、どの活動においても技能面には個人差がある。	・子どもたち自身に課題を意識させ、タブレット端末を活用しながら、自分たちで主体的に活動できるようにする。 ・ワークシートなどを活用し、めあてをもって運動に取り組むことができるようにする。

授業改善推進プラン＜学年別＞

04　練馬区立豊玉第二小学校

5年	課題分析	授業改善策
国語	・書くことに苦手意識をもつ児童がいる。自分の経験に価値付けて、文章表現することが弱い。 ・話し合い活動については、互いの立場や意図を明確にした上で、考えを広げたりまとめたりすることが苦手である。 ・文章の読み取りについては、文章の内容を的確に押さえることが苦手な児童への手だてが必要である。 ・筆者の主張に対する自分の考えを、文章に表すことが苦手である。 ・漢字の定着に個人差がある。	・自分の考えや意図を的確に伝えられるように、ワークシートなどを活用する。自分と友達の意見を比べながら聞くようにし、考えを広げる。 ・話し合い活動の際に、聞くことの必要性を確認してから活動する。 ・文章の要旨をつかみ、それに対する自分の考えを書いたり、話したりする活動の場を設定する。 ・読んだ本の紹介をし合って読んだ本の魅力を伝える活動を取り入れる。 ・小テストを行い、漢字の定着を図る。
音楽	・歌唱に関しては、斉唱であればのびのびと歌えていても、二部合唱になると音程に自信がなくつられてしまう場面が見受けられる。 ・器楽においては個人差があり、特にリコーダーでは運指や適切な息づかいで吹くことに難しさを感じている児童がいる。 ・ト音譜表を読むことには慣れてきている。一方、ヘ音譜表に関してはまだ読めない児童が多い。 ・鑑賞においては、強弱や速度、音の重なり方などの曲の特徴を捉えることができるようにはなってきている。学習したことを自分の言葉でまとめていけるようにしていくことが課題として考えられる。	・旋律の動きを手で表現して視覚的にも捉えるなど、耳だけの感覚だけではなく覚えさせていく。各パートの旋律を自信をもって歌えるところまで歌わせ、パートごとの並び順も考慮しながら、合わせる楽しさを味わわせたい。 ・個別に補充学習を行ったり、児童同士の教え合いも行ったりしながら技能面での個人差を改善していく。 ・階名や音符に慣れるための教材（プリントやフラッシュカード）を使用する。 ・学習したことを自分の中で思考し定着しているか確認しながら学習を進めていく。
図画工作	・創造的な技能について、さまざまな用具や材料の経験が少なく、表現方法の幅が狭い。 ・発想・構想の能力について、自分の思い付いたことや考えたことに自信がもてず、最後まで工夫して表現していけない児童が少数いる。	・さまざまな用具・材料の扱いを経験しながら自分なりの表現を主体的に広げていける題材を実施する。 ・造形遊びの題材を取り入れることで、材料・用具・場や空間と関わりながら主体的に表現できるようにしたり、活動の過程において、児童の発想・構想を共感的に声掛けしたりしていく。
家庭	・裁縫や調理等の技能領域において,習熟度や家庭での経験値による個人差が非常に大きい。そのため、一斉指導の形態では「作業が遅れて時間内に終わらない生徒」と、「早く終わりすぎて待ち時間を持て余す生徒」の二極化が生じている。	・手順やコツを収めた動画を視聴した上で活動に入るようにする。 ・本番前に、紙を用いた模擬練習（包丁の動きや穴あきペーパーでの運針など）を行う。失敗への不安を和らげて手順を視覚化し、本番の作業スピードを向上させる。
体育	・試行錯誤を避ける傾向にある。 ・運動能力差の共有の仕方が分からない。 ・言語活動を行う場面が少ない。	・ICT活用を通して、学習の見通しをもたせる。 ・体力テストの結果を基に、学年の課題を把握し、学習する中で身に付けさせる指導計画を立てる。 ・運動する楽しさや喜びを味わわせるために、授業内での見取りを行う。見取りを行う中で、指導する、支援する、見守る、つなげる、出合わせることを通して、児童のアクティブ・ラーニングを促す。 ・子どもから発せられた「問い」、こちらから促したい「問い」を意図的かつ見取りを行う中で即興的につかみ、考えさせる機会をつくる。

授業改善推進プラン＜学年別＞

04　練馬区立豊玉第二小学校

6年	課題分析	授業改善策
国語	・書くことに苦手意識をもつ児童がいる。自分の経験に価値付けて、文章表現することが弱い。 ・登場人物などの気持ちを考える力が弱い。 ・相手の話を聞き取ることが苦手である。 ・読書の活動に興味・関心を示す児童とそうでない児童の個人差がある。 ・漢字の定着に個人差がある。	・児童の学習活動を通しての取組を価値付け、児童の考えや思いから、学習計画や単元を通した問いを作成していく。 ・題材を工夫し、児童に身近な題材を考え、書くことへの意欲をもたせる。 ・本に触れる機会の充実を図る。図書室の活用や練馬図書館と連携し、児童の実態に合った読書活動の機会を設ける。 ・小テストを行い、漢字の定着を図る。
音楽	・歌唱においては、自然な発声でのびのびと表現することができている。しかし、男子の中には変声期に入ったことで自信をもって歌うことができない児童もいる。 ・器楽に関しては個人差が大きい。 ・鑑賞においては、曲想の変化に気付くことはできるが、その曲のおもしろさや美しさを感じ取りながら聴き良さを見いだしていくことにつなげていけると良い。	・変声期を迎えた児童には、個別指導でその時期ごとの配慮を考えていく。変声期について全体で取り上げ、どの児童ものびのびと歌える雰囲気作りを工夫していく。 ・個人の能力差を埋めるため、友だち同士で協力して音楽活動を進められるようにする。 ・音楽を構造的に理解できるよう、板書や視覚教材の工夫をする。曲を聴く際の視点を明確にすることで味わって聴き、良さを見いだせるようにする。
図画工作	・創造的な技能について、さまざまな用具や材料の経験が少なく、表現方法の幅が狭い。 ・発想・構想の能力について、自分の考えたことや想像したことを最後まで工夫して追究することに課題がある。	・さまざまな用具・材料を経験しながら自分なりの表現を主体的に広げていける題材を実施する。 ・活動途中で鑑賞を取り入れ、友達の作品と自分の友達の作品を比較したり、自分の表現を自己内省したりすることで、最後まで工夫して表現していけるようにする。
家庭	・技能面での個人差が大きく、同じように課題に取り組ませることが難しい。	・個に応じた課題設定を行うようにする。 ・グループ編成を工夫し、児童間で支援し合える環境を整備する。
体育	・試行錯誤を避ける傾向にある。 ・運動能力差の共有の仕方が分からない。 ・言語活動を行う場面が少ない。	・ICT活用を通して、学習の見通しをもたせる。 ・体力テストの結果を基に、学年の課題を把握し、学習する中で身に付けさせる指導計画を立てる。 ・運動する楽しさや喜びを味わわせるために、授業内での見取りを行う。見取りを行う中で、指導する、支援する、見守る、つなげる、出合わせることを通して、児童のアクティブ・ラーニングを促す。 ・子どもから発せられた「問い」、こちらから促したい「問い」を意図的かつ見取りを行う中で即興的につかみ、考えさせる機会をつくる。